

中教審「質の高い教師の確保部会」

「審議まとめ」を批判的に学ぼう 吹上学習会 ～感想～

○初めて参加しましたが、大変勉強になりました。全教で提案されていること、審議のまとめなど吹上さんのわかりやすいお話は法的根拠に基づいて、とても納得しました。私も、職場で意見を言うためには、法律のことを学び、子どもにとっての大切な教育のあり方を深く考えなくてはならないと痛感しました。また、参加したいと思います。(中学校)

○構造改革、新自由主義の流れの中での公務員削減という方向が、教員不足につながっていると認識を深めました。幅広い内容で学びの多い学習会になりました。(専門委員)

○給特法の歴史や全教のとりくみについて、丁寧に教えていただき、とてもよくわかりました。お話を聞いて、自分自身しっかり勉強しなくてはならないなど改めて痛感しました。「法や規則を知っていることが信頼につながる」「知ること、知らせることが大切」という言葉が心に残りました。(小学校)

○教職員の働き方改革が世間を騒がせるようになり、ある意味改善の方向に進んでいる面もあると思います。しかし、とかく勤務時間や残業手当等の給与面に集中しがちで、本来私たちが目指したい教育の在り方、人としての豊かな生活の在り方はどうありたいかがかすんでしまう気がします。私たちがゆとりを持って豊かな生活が送れ、豊かな教育を実現するために何が必要かを、現実から出発して見つめ直していかななくては、国(文科省)のワナにかかって、益々教育をダメにしてしまうのではないかと思います。今日学んだことを身近な人たちに伝えていく努力が改めて大切だと感じました。(専門委員)

○夏休みの初日に有意義なお話が聞けてよかったです。吹上さんのわかりやすいお話が島根で聞けてよかったです。東京で聞いたな～という話題もちらほら。何回も聞かないとすぐ忘れてしまいます。日々の忙しさに追われて、知らなかったことがたくさん。たくさん声にして、継続していくことの大切さを若い人たちにも伝えたいと思いました。(小学校)

○今まで教員として働きながら知らなかったことが、あまりに多かったです。「知らないとだまされる」ということの怖さがよくわかりました。働く中でおかしいと思ったら言うようにはしていますが、きちんと根拠となる法などを知っていないといけないのだと改めて思いました。いただいた資料をまずは読みたいと思います。また、このような機会があれば参加したいです。まだ、全く消化しきれいていませんが、今日はお話が聞けてよかったです。ありがとうございました。(小学校)

○教職員の定数改善が一番の改善策だということがわかった。自分が(教職員が)忙しくなった原因が法律の改悪や政策の中で起きていることがわかったし、そういうことを知っていなかったこともわかったので、情勢学習しなければだまされる~と思った。(小学校)

○全教役員が講師ということで、審議まとめから見える文科省や財務省のねらいや、全教の申入れのようすについてよくわかった。知る=学ぶことの大切さ、そこからおかしいことはおかしいと声をあげることの大切さを痛感した。(小学校)

○今迄全く知らなかった法令等について、新たに知ることができ、正直難しい言葉(自分の頭がついていけず...)もあり、資料○○ですと言われてもついていけない部分もありましたが、とても刺激になりました。知らなければどんどん勝手に為政者に変えられていく恐ろしさと、正しいと信じ学んだことを全国的な願いに結びつけば、必ず良い方向に変えることができるという前例に学び、微力でもつながり合って進んでいくことが大切だと改めて強く感じました。もっと広範囲に皆で学べる方法があると良いですね。でも、あ!~と思ったことは職場等でも語ってほしいと思います。ありがとうございました!(小学校)

○よく分かっていなかったことが知れてよかったです。資料をまた読み直そうと思います。ありがとうございました。日頃から思っていることやお話を聞いて感じたことをまとめます。

・行政と対等な立場で交渉できる組合の意義は大きいと思う。しかしそのことを知らない人が多いのではないか。

・私自身は私たち教員も労働者であるという意識をもつ必要があり、自分の労働環境について知識を持っておくことが必要だと思っている。でもあまりに人数が少なすぎて成果も少ないので、無力感を感じることも多いのも事実。人数が増えれば力になると思うけれど、茨の道に自分から入ろうと思う奇抜な人は少ないと思う。こうなると生き方の問題になるのかなと思う。なんとかしたい、学びたいと思う志の高い人と出会うために勧誘は続けていきたい。組合費の額を伝えると引かれるので、組合費が安くならないかなあ、とも思う。労働者の権利として、組合費補助っていう制度があればなあ、と思います。組合費は、給料の割合からするときついなあと思う人が多いのも事実です。

・「教師のバトン」の炎上で初めて広く世間に教師の勤務実態が広まったと思う。組合の地道な作業よりも影響力が大きかったと思う。高い組合費を払うよりもこうした動きで政府も反応し、世の中は良い方向にちゃんと進んでいると感じている若い人も多いのではないだろうか。そうじゃないよ、学ぼうよ、という呼びかけに答えられないのは、業務が多すぎるから。生活に余裕がないから。しかも、教師の一番の仕事である授業の準備や教材研究に割く時間を後回しにしないといけない現状がある。報告書、スケジュールチェック、職員会の起案、教材の注文、校外学習の渉外、日直の業務、施設管理...。こうした学校事務や施設管理、子どもの安全を守るスタッフなどが必要。学校は教員だけでなく、いろいろな職種の人が必要ではないだろうか。すべて教員がやっているから問題が起きていると思う。そういった意味でも、学校の中の構造改革をしてほしいと思う。事務員を各学年に配置する、施設管理を担う人を雇う、くらの、教員が授業や子どものことを中心に考えて動けるような社会にしてほしいと思う。(小学校)